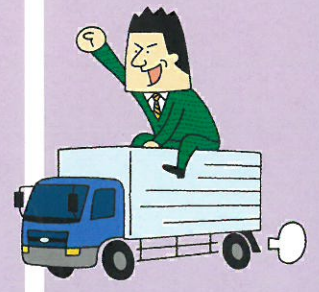


NIKKEI TOP LEADER 日経トップリーダー

2019 10
October

特集

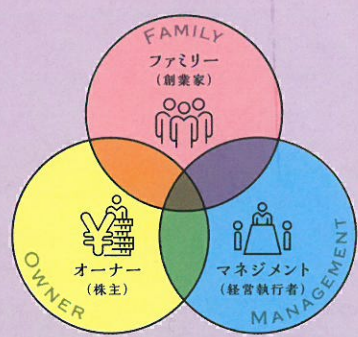
消費増税に負けない中小企業の対抗策
物流コストを見直せ!



特集

星野佳路と学ぶ

ファミリー ビジネスの プレミアムワーク



オーナー経営者必読の新・成長法則が明らかに!

新連載 大創産業創業者 矢野博文の運の引き寄せ方

経営とは、つまるところ「運」である



人間関係重視の 課長クラスは 経営者と意識差

社員の理想像はどんな姿か。

経営幹部向けの転職支援を展開する経営者J.P.（東京・渋谷）は、「理想とする社員のタイプ」を経営者、幹部・役員、部長、課長という階層ごとに調査した（7月に実施し、有効回答数は100人）。

経営者の86・2%が理想とするのは、実力、実績を重んじる「仕事重視タイプ」。良好な人間関係を大事にする「人間関係重視タイプ」は、10・3%に留まった。

一方、課長クラスでは「仕事重視」が56・3%に減少し、「人間関係重視」が31・3%に増加。現場に近い課長クラスになるほど、円滑な人間関係を社員に期待する傾向が強いといえそうだ。

こうした結果が出たことについて、経営者J.P.の井上和幸社長は「右肩上がりで成長が続く時代が終わり、経営の効率化が求められている。経営者は仕事の実力・実

績重視で社員を見ざるを得なくなっている。その結果、今までと変わらず、人間関係重視のまま働いている課長など現場に近い社員とズレが生じている」と分析する。

経営者が求める仕事重視の社員とは、「結論から報告し、ファクトベースで説明した後、明確なゴールの設定ができる」（井上社長）と。いったてきば動く人材だろう。

しかし、人間関係重視である課長以下の社員たちは「仲間と一緒に頑張ること」にやりがいを感じる。このタイプは、自分で仕事をぐいぐい進めることより、上司の指示通りに動いて認められるほうがやりがいを感じる人が多い。

このすれ違いから、経営者は「指示待ちの社員が多い」と不満を持ちがちになる。しかし、それを指摘しても現場は戸惑うだけだ。

「仕事を押しつけず、本人にいつまで何をやるかをコミットさせる。仕事が計画通りに進まないときは、できないことを叱ってはいけない。何が良く何がダメだったか、次はいつまでにどう改善するかという具体的なフィードバックと感謝を伝えることが大事」と井上社長はアドバイスする。

今月の数字

社員の理想像

「人間関係重視」の課長

31.3%